拓水
TAKUSUI
No. 760

2
February.2020

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

第23回 山田記念賞 表彰式（神戸市）

第23回 山田記念賞 表彰式・祝賀会 開催

第44回 淡路のり品評会 開催

《今月の海上安全標語》 ～ 思いこみ・見落としに注意！～

自分はしっかりと安全確認をしたと思っていても、うっかり見落としていることもあります。安全確認に完璧はありません。常に自分の安全確認を疑って、何度も確認する癖をつけましょう。

疑おう！ 完璧なしの 安全確認 では、今月も安全操業で！

ようそろ
ふるさと紹介
～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

日本漁船保険組合 兵庫県内海支所 総務部主任

坂田 健一

皆様こんにちは。日本漁船保険組合で総務を担当しております坂田と申します。

県の職員の方や、系統団体の役職員の方々が趣向を凝らした「ようそろ」を読むのが毎月の楽しみになっています。そんな「ようそろ」への寄稿の順番がこの度回ってきてしまったようです。

さて、何を書こうか悩みましたが、せっかくの機会なので出身地の大分県（おんせん県）の紹介をさせていただきます。

大分県は豊後水道、別府湾を有し、佐賀関の「関アジ」「関サバ」や日出町の「城下かれい」など全国的にも有名なブランド魚があります。また10年ほど前より、養殖の鰤に特産品のカボス（関西ではあまりなじみがないかもしれませんが柑橘系の果物）を餌に使った「かぼすブリ」なる魚を生産しています。私も食べた事がありますが、噛んだ瞬間、柑橘系のさわやかな風味が口の中に広がりとても美味しいです。また、別府や湯布院などの温泉観光地も有名です。温泉湧出量日本一を誇り、全11種類に分類される泉質のうち10種類が揃います。別府には国指定の景勝地「地獄」があります。「地獄」を見たことがない方は本物がどんなものか是非自分の目で確かめて見てください。（いろんな意味で保証はできませんが……。）

そして、兵庫県と大分県は古くから瀬戸内海航路を使っての人の往来があり、今でも大型客船での船旅を楽しむことができます。ちなみに大分市内の中学校の修学旅行といえば別府から神戸まで船で渡り、奈良の大仏や京都市内、大阪城を観光し、そして最終日にポートピアランドに立ち寄ってまた神戸港から別府港へ帰るというコースが定番でした。ですので、市内出身のほとんどの人は瀬戸内海を渡って兵庫県を訪れたことがあるのでないかと思います。

大学進学を機に地元を離れ、兵庫県に来て14年が経ちました。今は年2回、GWと正月に帰省し、兵庫県出身の息子と娘を温泉に連れて行くのが楽しみになっています。まだまだ先の話（30年後）ですが老後は地元に帰って温泉三昧なんていいなあと考えていますが、そのためには毎日の仕事に精を出して頑張っていきたいなと思います。

最後になりますが、節分、立春が過ぎ、暦の上では「春」ですが、急に寒い日が続いたりと寒暖の差が激しい今日此の頃です。皆様におかれましては最近流行りの新型肺炎だけでなく、インフルエンザや風邪等十分気を付けてお過ごしください。

CONTENTS

No.760 February. 2020

2 ようそろ

3 第23回「山田記念賞」表彰式・祝賀会

4 ＪＦ全国代表者集会
（一社）播磨漁友会臨時総会

5 第44回 淡路のり品評会

6 第57回 淡路農林水産祭
県漁青連・大阪府漁青連交流会

7 ＪＦ伊保 マガキ養殖試食会
水産多面的機能発揮対策報告会 シンポジウム

8 高砂市漁連 講習会
ライフジャケットは正しい着用を

9 大型船シミュレーター研修
姫路海上保安部からのお知らせ

10 神戸海上保安部からのお知らせ

11 令和2年度 兵庫県漁村子弟育英生募集

12 税務署からのお知らせ

13 兵庫 JCC 通信

14 旬に想う
大輪田塾だより

表紙の言葉

「第23回 山田記念賞 表彰式」（神戸市）

長年にわたり、地道にご努力を重ねられ本県水産業の振興に貢献し顕著な活躍をされた方々に贈呈される山田記念賞。本年度は３名の方々が受賞されました。

式典では、大輪田塾15期生の紹介も行われ、緊張しながらも立派に自己紹介・抱負などの決意表明を行いました。

祝賀会では、参会者一同、受賞者の栄誉をお祝いし、終始華やかな雰囲気に包まれました。

漁業者の絶え間ない努力で漁業が次世代に継続されることを切に願います。

第23回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催

～本県水産業の発展に貢献された3名が受賞～

「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田 岸松氏を偲び、そのご功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が認められた方々に贈られる賞で、今回で23回目となります。

今年も（一財）兵庫県水産振興基金（東根 壽理事長）主催による同賞表彰式および祝賀会が2月10日（月）神戸市内のホテルで開催され、県・漁協等の関係者ら73名が出席しました。

本年度受賞者は、森本 明様（ＪＦ神戸市）、戎 義明様（ＪＦ仮屋）、磯田 和志様（ＪＦ但馬）の3名で、当基金 井戸 敏三会長（兵庫県知事）が受賞者へそれぞれ「天与」と命名された「男女漁業者立像」レリーフを贈呈しました。東根 壽理事長が主催者挨拶をしたあと、兵庫県 井戸 敏三知事は「本日受賞された3名の方は、先達としてこれまでの体験や培った技術を伝えてもらいたい」と挨拶をされ「兵庫の海を支えし方々に感謝を励まし活躍願う」とした短歌を贈られました。また、受賞者を代表して磯田様から謝辞がありました。

福田 一義副理事長（ＪＦ神戸市）の開宴挨拶に始まった祝賀会では、大輪田塾15期生3名も紹介され、今後の抱負を語りました。参会者一同、受賞者の栄誉をお祝いし、終始華やかな雰囲気に包まれるなか、兵庫県漁業共済組合 川越 一男組合長が万歳三唱を行い、幕を閉じました。

【大輪田塾15期生のみなさん】
左から、藤原聡志さん（兵庫県漁業共済組合）、
永松　航さん（ＪＦ坊勢）、清水琢人さん（ＪＦ明石浦）

左から、東根理事長、田沼会長、森本ご夫妻様、戎ご夫妻様、磯田ご夫妻様、井戸知事

JＦ兵庫漁連からのおしらせ

JＦ全国代表者集会が開催 ～新しい運動方針が決まる～

去る11月22日（金）、ＪＦ全漁連は東京都内で「ＪＦ全国代表者集会」を開催し、全国のＪＦ代表者など約１，０００人が参加するなか、全会一致をもって２０２０～２０２４年度の運動方針と、水産業の成長産業化に向けた改革の実践に関する特別決議が採択されました。

大会冒頭、ＪＦ全漁連 岸 宏会長は主催者挨拶で、新たな運動方針について「漁業者自らが浜の未来を切り開き、漁業の成長産業化に向けて改革を実践するという想いを持ちながら、浜の構造改革や漁業所得の向上に取り組んでいく」と述べられました。

なお、今回採択された新運動方針の概要は次のとおりです。

【2020～2024年度 ＪＦグループ運動方針】

水産業の成長産業化に向けた改革の実践
～ＪＦグループが漁業者とともに自ら拓く浜の未来～

【重点事項（取組の柱）４つとそれぞれの取組事項について】

1. 漁業者自らが進める浜の構造改革
- 担い手漁業者の確保・育成
- 広域浜プラン等による構造改革
- 浜プランと異業種連携等の一体的な取組による新たな事業展開への挑戦

2. 浜の改革を支えるＪＦグループの改革
- 販売事業改革の実践
- 合併推進や小規模ＪＦ対策の組織再編取組
- 浜の改革を支える総合事業体として役割発揮
- 人材活用・育成

3. 新たな制度等への的確な対応（水産政策改革等）
- 漁業権制度等の運用
- 漁場管理・資源管理対策
- 沿岸漁業の構造改革の推進・総合的な漁業経営安定対策
- 水協法改正への対応
- 関係する制度への対応や活用

4. 地域社会・地域漁業への貢献
- 活力ある漁村地域づくりの推進
- 多面的機能の発揮等
- 国民への情報発信・理解醸成に資する広報機能の強化

（一社）播磨漁友会 臨時総会 開催

１月17日（金）、（一社）播磨漁友会（井上 仁会長：ＪＦ岩見）の臨時総会が姫路市内のホテルで開催されました。同会は毎年この時期に臨時総会を開催しており、今年は会員の播磨地区16漁協の組合長と来賓の行政、系統団体の関係者が出席しました。

開会にあたり井上会長は、新年の祝意を述べたあと、「ノリ・カキ生産は順調な漁模様となっている。イカナゴは不漁の予想であるが希望を持っていきたい」と挨拶がありました。そのあと来賓出席者を代表して兵庫県水産課 長島 浩課長、ＪＦ兵庫漁連田沼 政男会長が挨拶されました。

議事では、井上会長が議長となり当該年度補正予算案及び次年度事業計画・収支予算案、会費徴収案について審議され、３議案は総て全会一致で決定されました。

挨拶を行う井上会長

第44回 淡路のり品評会 開催!!
～優秀品24点が選ばれる～

（一社）淡路水交会（東根 壽会長）主催による淡路のり品評会が、2月3日(月)淡路水産センター（洲本市）で行われ、報道陣が集まるなか優秀品24点が選ばれました。44回目となるこの会は、生産者の意識の向上と生産技術の研鑽を図る目的で毎年開催されており、12月上旬から1月上旬までに淡路島内で生産された乾のりについて審査を行うものです。

系統団体・県洲本農林水産振興事務所の関係者ら10名の審査員が、応募のあった73点の中から第一次審査で選ばれた50点を対象に、色・艶・風格・味などを基準に審査を行いました。今年は、良い出来栄えのノリが出揃ったため、会場では審査員らが頭を悩ませていました。

審査の結果、最上位の兵庫県知事賞は柳川水産（JF育波浦）が受賞しました。

なお、今回も出品されたノリはすべて味付け加工して、福祉施設等に無料配布されます。

どのノリも品質は良く、難しい審査となりました

第44回 淡路のり品評会審査結果表

（敬称略）

<table>
<tr><th colspan="2">賞の区分</th><th>漁協名</th><th>経営体名</th><th>代表者名</th><th>賞の区分</th><th>漁協名</th><th>経営体名</th><th>代表者名</th></tr>
<tr><td colspan="2">兵庫県知事賞</td><td>育波浦</td><td>柳川水産</td><td>柳川 高広</td><td rowspan="3">兵庫県漁業共済組合長賞</td><td>室津浦</td><td>丸喜水産</td><td>望月 嘉人</td></tr>
<tr><td colspan="2">兵庫県議会議長賞</td><td>津名塩田</td><td>中野水産</td><td>谷 忠男</td><td>室津浦</td><td>新和水産</td><td>浜田 恵一</td></tr>
<tr><td colspan="2">兵庫県淡路県民局長賞</td><td>森</td><td>厳水産</td><td>森 吉秀</td><td>仮屋</td><td>由仲水産</td><td>岡田 忠明</td></tr>
<tr><td colspan="2">兵庫県漁業協同組合連合会長賞</td><td>育波浦</td><td>桑名水産</td><td>桑名 幸充</td><td rowspan="3">兵庫県ＪＦ共済推進本部長賞</td><td>森</td><td>利平水産</td><td>森 正安</td></tr>
<tr><td colspan="2">兵庫県立農林水産技術総合センター所長賞</td><td>仮屋</td><td>新平水産</td><td>相田 和民</td><td>室津浦</td><td>大関水産</td><td>岡野 門太</td></tr>
<tr><td colspan="2">兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所長賞</td><td>仮屋</td><td>岡田水産</td><td>岡田 光司</td><td>室津浦</td><td>大寅水産</td><td>浜田 伸彦</td></tr>
<tr><td rowspan="3">島内市長賞</td><td>洲本市長賞</td><td>洲本炬口</td><td>ちくば水産</td><td>竹岡 千尋</td><td rowspan="3">日本漁船保険組合
兵庫県内海支所運営委員長賞</td><td>五色町</td><td>大橋水産</td><td>大橋 盛夫</td></tr>
<tr><td>淡路市長賞</td><td>育波浦</td><td>柿本水産</td><td>柿本 幸久</td><td>森</td><td>音蔵水産</td><td>森 祐三</td></tr>
<tr><td>南あわじ市長賞</td><td>湊</td><td>三共水産</td><td>山形和三郎</td><td>室津浦</td><td>まる民水産</td><td>小央健太郎</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">なぎさ信用漁業協同組合連合会
経営管理委員会長賞</td><td>森</td><td>栄住水産</td><td>森 活住</td><td rowspan="3">一般社団法人 淡路水交会長賞</td><td>森</td><td>丸竹水産</td><td>畠田 良太</td></tr>
<tr><td>森</td><td>安啓水産</td><td>畠田 安啓</td><td>室津浦</td><td>栄福水産</td><td>漣 勝也</td></tr>
<tr><td>一宮町江井</td><td>塩田水産</td><td>塩田 真規</td><td>仮屋</td><td>三大水産</td><td>相田 治良</td></tr>
</table>

第57回 淡路農林水産祭 開催！

1月15日（水）、淡路島の豊作豊漁を祈願し、農林水産業の振興を目的とした淡路農林水産祭が淡路市多賀の伊弉諾神宮にて開催されました。

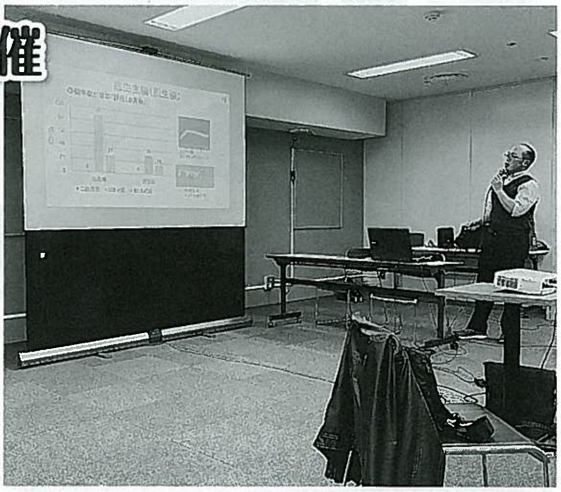
式典では、今年一年の豊作と豊漁を祈願する「農林水産物豊穣豊漁祈願祭」が系統団体や行政機関の代表者等が参列するなか執り行われました。引き続き行われた式典では、川野 正二氏（JF由良町組合長）が兵庫県自治賞を授与されました。また、農林水産功労者として、漁業調査や資源管理の推進に尽力された松本 勝一氏（JF南淡）、震災復興や地域の漁業振興に尽力された太田 勝氏（JF一宮町）、操業調整や漁協運営に尽力された森 行啓氏（JF浅野浦）の3名や農業関係の功労者計8名が表彰されました。農林水産物等コンクール水産加工品（のり）の部では、JF森 大草水産に知事賞（金賞）、JF育波浦 桑名水産に議長賞（金賞）がそれぞれ授与されました。

会場では島内各地で生産された農林水産物の販売・展示が行われ、多くの参拝客で賑わいました。

【当日、表彰を受けられた方】（敬称略）

	氏　名	所　属
兵庫県自治賞	川野　正二	ＪＦ由良町
農林水産功労賞	松本　勝一	ＪＦ南淡
	太田　　勝	ＪＦ一宮町
農林水産功労賞（広域）	森　　行啓	ＪＦ浅野浦
金賞（知事賞）	大草水産（大草　義美）	ＪＦ森
金賞（議長賞）	桑名水産（桑名　幸充）	ＪＦ育波浦

県漁青連・大阪府漁青連交流会開催



兵庫県漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長）と大阪府漁協青壮年部連合会（音揃 将仁会長）は、令和元年度兵庫県漁青連・大阪府漁青連交流会を2月1日（土）大阪市内の会議場で開催し、両漁青連と関係者合わせて約30人が参加しました。この交流会は、両漁青連が一堂に集い、水産業を巡る様々な問題に対して、討議・意見・情報交換し、同じ漁業者として認識を1つにし、意識を高めることにより、両府県の水産業の永続的な発展の一助とすることを目的として、これまで数回開催されており今回は約2年ぶりとなりました。

開会の挨拶で山崎会長は「兵庫からは大阪湾で操業する会員が多く参加している。有意義な意見交換の場になれば」と話され、続いて「大阪府漁連の活動紹介」として、大阪府漁連指導課 岡本 英明主任が講演を行いました。

講演では、貧栄養・底質改善・貝毒対策への対応として実施されている海底耕耘の取組み、府漁連が実施する海ゴミ回収事業などが紹介されました。

次に「これからの漁業について」として、大阪府環境農林水産部水産課 久保 佳洋主任研究員が講演を行いました。講演では、「資源不足」「魚価低迷」「後継者不足」等多くの課題解決に向けた大阪府内での取組等の紹介が行われ、将来の漁業については、行政や系統を頼りすぎず、漁業者自らが考え、取り組んで行くことが必要だと述べました。

総合討論では、講演内容の「貧栄養」「貝毒」の問題はもちろん、近年増加傾向にあるプレジャーボートとの沖でのトラブル等多岐にわたる意見交換が活発に行われ、盛会裡のうちに閉会となりました。

JF伊保 マガキ養殖試食会

水産研究会 大西さん(右)となぎさ信漁連営業部 加藤副部長

伊保漁業協同組合水産研究会（村岡 聖史会長）が、主力となる船びき網の漁閑期や小型底引き網の漁獲が少ない冬期の漁業振興を図るため、２０１４（平成26）年にカキの養殖への取り組みを始め、養殖試験、区画漁業の免許申請、生食用カキを出荷するための清浄海域の指定の取得など６年間の取り組みを経て収穫を迎えました。

収穫したカキはバスケット式によるシングルシード養殖で育てられたマガキで、深みのあるカップ形の殻が特徴です。９月から育てた種ガキは約１センチから約８センチに成長し、近隣の産地に比べ殻の大きさは小ぶりですが、その分丸みが増し、オイスターバーや前菜での提供に適しています。

２月４日には、なぎさ信用漁業協同組合連合会のコーディネートを得て、明石市にてお披露目会が開かれ、他地区で収穫されたカキとの食べ比べなども行い、参加した関係者・バイヤーから高い評価を得ました。

同水産研究会の大西 正起さんは「見るからにクリーミーで、身の入りもいい。栄養が豊富な高砂の海で育ったカキが全国に知られるよう、生産量を増やしていきたい」と話し、「高砂市の新たな名物」と期待を寄せています。

殻が深いのが特徴

水産多面的機能発揮対策報告会 シンポジウム「里海保全の最前線」

２月８日（土）、水産多面的機能発揮対策報告会 シンポジウム「里海保全の最前線」が東京大学安田講堂で、全国から５００名を超える参加者のもと開催されました。

シンポジウムでは、冒頭「海洋プラスチックごみ研究の現状と課題」と題して、東京大学 道田教授より、潮流の流速分布に従って海洋ゴミが拡散している話や海洋プラスチックごみの今後の研究等について講演がありました。

次に、全国６つの活動組織より活動報告が行われ、本県からは香住の海の会による海の監視ネットワークの取組について、ＪＦ但馬香住支所 駒居 慧一 副課長より発表されました。当会では、平成25年度の取組開始時は９～11月に１５０回前後の監視活動でしたが、平成30年度から通年１、８００回以上の活動が約37隻で実施されています。監視活動では、流木や浮遊ロープ等が主に発見されますが、本年度は北朝鮮籍と思われる無人の木造船の発見にもつながっています。さらに、海岸や港湾に漂着したゴミの処分は一般的に管理者の責任ですが、漂流ゴミ・海底ゴミ・漁業操業中に漁網等に入ったゴミは一体誰が処分すべきものなのか、駒居さんの発表の中で問題提起があり、最後の意見交換ではコメンテーターと会場とで熱い質疑が交わされました。

発表する駒井副課長

また、活動報告に加えて、全国各地の活動組織の活動状況を報告するポスター展示があり、本県から明石市林崎地区浅場を守る会のポスターが展示され、毎年７～８月に約11隻で海底耕耘を２回以上繰り返し実施し、耕耘後の底生生物は平成28年度と比べて29・30年度には約８倍以上増加していることが伝えられました。

（文：ＪＦ兵庫漁連 指導部）

高砂市漁連 海難事故「ゼロ」を目指し講習会開催

漁船の海難防止〝0（ゼロ）〟を目指して、高砂市漁業組合連合会（松本 力会長）は毎年この時期に「漁船海難防止講習会」を開催し、操業安全指導とライフジャケットの全員着用を呼びかけています。今年も1月21日（火）、高砂市役所で加古川海上保安署及び日本漁船保険組合兵庫県内海支所から講師を招き、来賓の高砂市 登 幸人市長や系統団体関係者をはじめ、ＪＦ高砂・ＪＦ伊保の漁業者約50名が参加しました。

講演では、まず、加古川海上保安署 前田 竜之介専門員から「船舶交通の安全について」として、最近の海難発生状況と海難防止対策として、①出港前点検②救命胴衣の常時着用③見張りの徹底について指導がありました。次に、日本漁船保険組合兵庫県内海支所 井田 覚次長より「漁船の海難事故」として、近年の事故実績と賠償事例について講演が行われました。ＪＦ兵庫漁連から「ライフジャケットの着用実演」として、固形式・膨張式など様々なライフジャケットの紹介と着用時の注意点や作動方法について説明と車載用ドライブレコーダーを使った映像記録試験の途中結果が報告されました。

ライフジャケットは正しい着用を!!
～柴山湾内におけるボート転覆遭難事故～

1月5日昼ごろ、香美町柴山湾内で強風の中、手漕ぎボートで釣りをしていた二人組が北風にあおられ転覆、二人とも〝海魔〟の犠牲になるという痛ましい事故が発生しました。

知らせを受けた海保、警察等捜索隊が岸伝いに探していたところ、湾内の岩場に本人の物と思われるライフジャケット（ＬＪ）等が漂着していました。しばらくして海面に浮いていた二人を引き揚げた結果、やはり一人はＬＪを装着していませんでした。

落水した時の衝撃、あるいは泳いで助けを待っていた時に脱げてしまったものと思われます。

今回は冬期であったこともあり、不幸にも二人とも助かりませんでしたがＬＪは正しく装着してこそ威力を発揮します。

出漁される方はもちろんのこと、岸壁等で釣りをする方もＬＪの股下ベルトがあるタイプの物は必ず通し（写真）正しく装着しましょう。

（文：ＪＦ但馬 柴山支所長 和田 耕治）

大型船シミュレーター研修を実施
～海技大学校で開催～

国土交通省神戸運輸監理部、独立行政法人海技教育機構 海技大学校（芦屋市）が主催する安全運航講習会は、平成22年から毎年、イカナゴ漁期前のこの時期に安全運航の意識を高めてもらおうと開催されています。

12回目となる今年は、1月21日（火）同大学校内で開催され、播磨灘付近で操業するJF組合員、職員をはじめ系統団体からの参加者は、漁船海難発生のメカニズム解説、CPR（心肺蘇生法）の講習、12万トンの大型船から見た小型船の様子を体験するなどの講習を行いました。

最初に行われた同校 岩瀬 潔教授の講演「漁船海難について」では、衝突海難の背後要因にある自分に有利な情報ばかりを集める心理状態「確証バイアス」があるので、事故回避のために常に疑問を持ち、先入観と逆の考え方をする必要があると話されました。

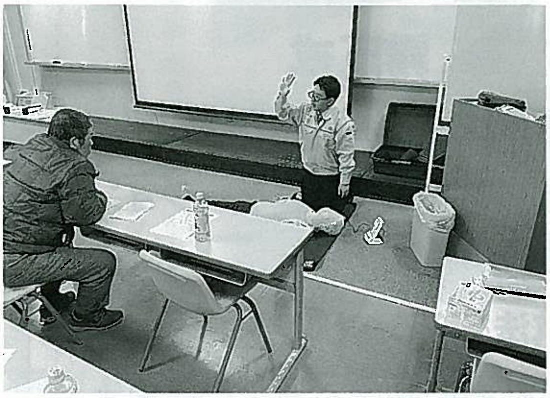
CPRとAED使用法を学ぶ「救急救命講習」では、同校 濵田 聡樹准教授から、一時救命処置の重要性や処置の流れの解説を受けた後、胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸の実演を行いました。

大型船ブリッジを忠実に再現したシミュレーター講習では、神戸沖から明石海峡大橋を通過するまでを、濃霧時や雨天における大型船と漁船の見え方を双方の視点に切り替えて体験しました。

大型船からは漁船が確認しにくいことを体験し、「これでは漁船は全く見えない」「漁船からは見えていても大型船からは見えていないことが分かった。今後は気を付けたい」などと声が上がりました。

また、大型船の前を横切る漁船が船の前方で死角に入ったところで、大型船・漁船の双方の視点に画面を切り替えて距離感の違いも体験し、大型船側から見た光景との差に驚いたようで漁業者から「このくらいの距離まで接近することはある。大型船からは周りが見えにくい事がわかった」との感想がありました。

大型船シュミレーター



救急救命講習の様子

海の事故ゼロを目指して！
～ご高齢の船長さん気を付けて～

姫路海上保安部からのお知らせ

第五管区海上保安本部管内における令和元年（1月～12月）の船舶事故（アクシデント）隻数は２１５隻（BANによる救助を除く。）、このうち漁船は42隻（全体の約20％）を占めています。また漁船に65才以上の高齢者が乗船した船舶事故隻数は26隻（漁船事故の約62％）にのぼっています。

令和元年、姫路海上保安部及び加古川海上保安署管内では、漁船の事故隻数は5隻であり、このうち65才以上の高齢者乗船は3隻（漁船事故の60％）となっています。

高齢者の事故の要因としては、若年層と比較して「体力の衰え」、「集中力、判断力の衰え」、さらに長年の経験からくる「慣れや油断」等が考えられます。船舶事故の中でも特に衝突、乗揚げ事故については、発生すると死傷を伴うことがあることから、未然防止として『まわりの状況』『スピード』等の基本的な事項に注意をお願いします。

「霧五戒」していますか？

神戸海上保安部からのお知らせ

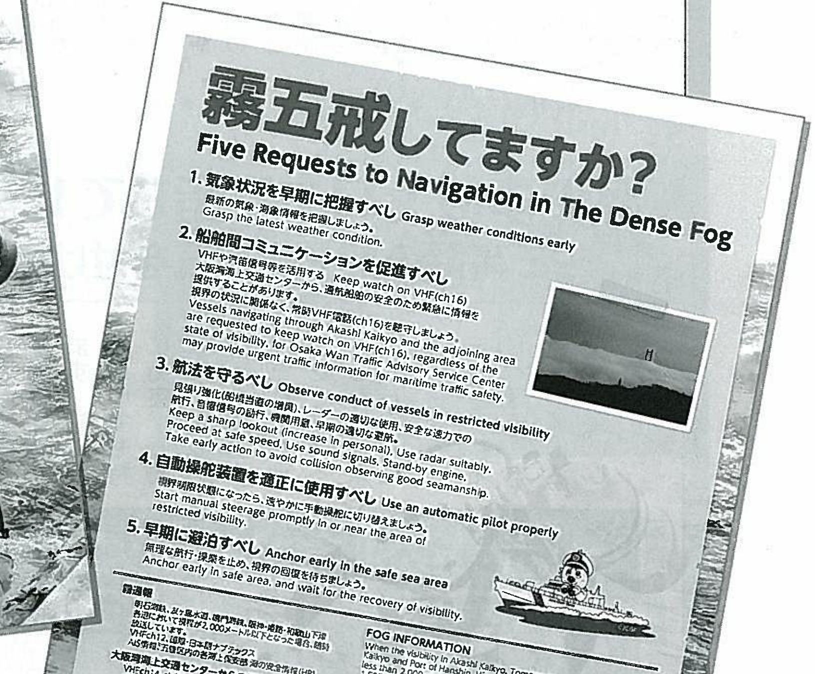
瀬戸内海、紀伊半島は、春先に濃霧が発生しやすく、これに伴う衝突・乗揚げ海難が発生しやすい状況にあります。

このため近畿・四国地方海難防止強調運動の一環として３月に「霧海難防止キャンペーン」が実施されます。

霧発生時等視界制限時の遵守事項「霧五戒」を確認ください。

霧五戒

1. **気象状況**を早期に把握すべし
2. 船舶間の**コミュニケーション**を促進すべし
3. **航法**を守るべし
4. 自動操舵装置を**適正**に使用すべし
5. 早期に**避泊**すべし



令和２年度 兵庫県漁村子弟育英生募集!!

（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫県水産振興基金では令和２年度育英生を次のとおり募集します。また、各ＪＦ、系統団体あてに案内を郵送します。

1　応募資格

①　県下の漁業協同組合又は水産系統団体に所属する組合員又は職員の「子弟」及び「遺族」であり、高校又は大学等に在学（入学予定を含む）し、所属漁協・団体の長が育英生として適当と認めた方。

②　ただし、日本学生支援機構等から奨学金を受けている方は、本基金の育英生になることができません。

2　貸与金の額

学　別		貸与月額
大　学　生		30,000円
高校生	寄宿生	25,000円
	通学生	20,000円

3　申込方法

所属漁協を通じて「漁村子弟育英生申出票」、「貸与申込書及び添付書類」を提出してください。

提出期日	漁村子弟育英生申出票	令和２年３月31日（火）
	貸与申込書及び添付書類	令和２年４月30日（木）

4　育英生の採用決定

本基金選考基準により審査のうえ採否を決定し、６月中旬頃に所属漁協等を通じて連絡します。

5　育英資金の貸与方法

所属漁協等を通じて、前期分・後期分をまとめてそれぞれ４月・10月に貸与します。
（ただし、初年度前期分は７月に貸与）

6　貸与金の返還方法

①　貸与金は無利息とし、貸与期間終了（卒業）後、１年間据え置き２年目から返還していただきます。

②　返還期間は、貸与金額に応じて返還開始から５～10年間です。

7　その他

漁船海難遺児に対しては、本基金の事業とは別に、兵庫県漁業協同組合連合会が事務局となって取り扱っている有利な育英制度がありますのでご留意ください。

税務署からのお知らせ

令和元年分
確定申告
ネット申告が (e-Tax) 更に 便利に なりました！
スマホで 申告 もっと できます
詳しくは↓
確定申告 検索
申告と納税
窓口での相談・申告書の受付は、令和2年2月17日(月)からです。
所得税および復興特別所得税・贈与税
令和2年 3月16日(月)まで
消費税および地方消費税(個人事業者)
令和2年 3月31日(火)まで
申告の際にはマイナンバーの記載＋本人確認書類の提示又は写しの添付が必要です。
ネット申告(e-Tax)で提出の場合は、本人確認書類の提示又は写しの添付は不要です。
事業税・住民税の申告期限 令和2年3月16日(月)まで
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
税務署・都道府県・市区町村

元気な地域を目指して 高齢者の健康と 生きがいづくり

ＪＡあいおい

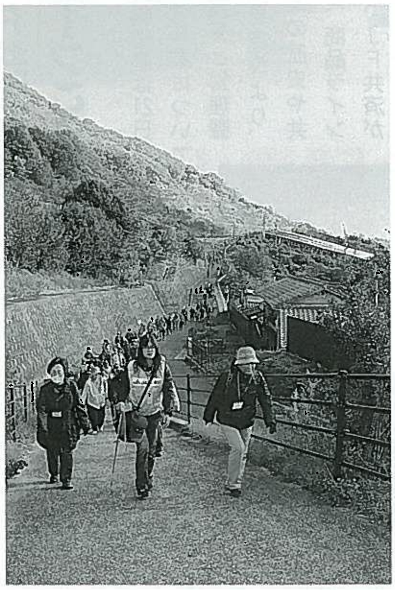
ＪＡあいおいでは、地域に密着した「共感」できる協同活動として、地域の人々を対象としたさまざまな活動を行っています。相生市で高齢化と人口の減少が進んでいることから、ＪＡは高齢者が少しでも長く健康を維持しながら、地域に住み続けられるよう地域貢献活動に力を入れています。

ＪＡで年金を受け取る人々が集まる「年金友の会」では、会員がいつまでも健康で、人とのつながりをつくって楽しく過ごせるように、多岐に渡るサークル活動やイベントを実施しています。

中でも代表的なイベントは年に1度のウォーキングイベントで、本年度は「しまなみ海道」で開催しました。参加者は124人に上り、ウォーキングと観光を通じて親睦を深めました。企画や運営は、担当課の職員を中心に、役職員全員が一体となって行います。参加者に楽しんでもらいたいとの思いから、なかなか手に入らないお土産をプレゼントするサプライズ企画を用意するなど、工夫を凝らしています。

また、地域の人々が気軽に顔を合わす場として、月に1度、店舗に多くの利用者が来店する貯金日に合わせて「友相(ゆうあい)サロン」を開催しています。利用者からは、「気軽に立ち寄ることができ、交流を深めやすい」と好評です。

ＪＡでは今後も、地域の人々に楽しみと憩いの場を提供することで地域の活性化を図り、より多くの人々にＪＡファンになってもらうよう取り組みを進めていきます。



今年度のウォーキングの様子

第15回 「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催

1月11日（土）、兵庫県民会館において、第15回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。兵庫県知事をはじめ、消費者行政の皆様や、兵庫県農業協同組合中央会、兵庫県森林組合連合会、共栄火災海上保険株式会社、会員生協・団体の役員と職員、合わせて47人の方々にご参加いただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

新春トップセミナーでは、木田 克也会長理事の開会挨拶に続き、兵庫県 井戸 敏三知事からご挨拶をいただきました。その後、兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 木村 玲欧教授から「阪神・淡路大震災25年に考える大規模自然災害への備え～地域の生活復興に向けた生協の役割と期待～」と題して講演いただきました。

木村教授は講演で、自然環境が変わってしまった今、「個人・組織・社会」を変える必要性について触れ、「今の若い人たちにとって阪神・淡路大震災は、もはや他人事となってしまった。それをもう一度、『わがこと』として思ってもらう。そういった作業が四半世紀たった今の時点での我々の役割だと言える」と話され、阪神・淡路大震災25年に震災を風化させない「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」ことをあらためて考えるセミナーとなりました。

その後、開催された賀詞交換会には、兵庫県の消費者行政の方々にもご参加いただきました。木田 克也会長理事の挨拶に続き、ご来賓を代表して兵庫県企画県民部県民生活局の生安 衛 局長によるご挨拶と乾杯のご発声で和やかに会がスタート。日頃からご指導いただいている行政の皆様と会員生協・団体の皆様、それぞれに賀詞を交換し、交流を深めました。

新春トップセミナー

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文 遊方子

坂本龍馬の魅力

◆明治初め、自由民権運動で活躍した坂崎紫瀾が高知の新聞に連載した『汗血千里駒』は坂本龍馬を題材にしている。歴史上の人物に託し当時の政治を風刺、龍馬を担ぎ出し自由民権のシンボルとして扱った。その後、龍馬を主人公とした小説や芝居・ドラマは数多く、それぞれが魅力ある人物像として描かれている。司馬遼太郎『竜馬がゆく』は、江戸へ剣術修行に旅立つ場面に始まり、幕末の若々しい青春群像を描きだす。著者は龍馬のいた時代は《日本史が所有している青春》だと述べている。坂本龍馬の若い頃に関する史料は少なくて、作家の自由な発想により、若々しく大らかな人物として描かれた小説であった。

◆幼少期の龍馬は無口で温和しく、塾通いで習字や素読を習ったが成績は悪く、学友にいじめられる泣き虫少年だった。喧嘩両成敗により退学の羽目になるが、剣術は小栗流に入門し鍛錬の結果、逞しい青年へと成長する。身長は五尺八寸、当時としては大きい方で、16歳で土木工事の監督を努めるが、リーダーシップの旨さから作業員には慕われる。活動家の片鱗が窺えるが、19歳で剣術修行のため出国を許され、江戸の千葉道場にて北辰一刀流を学ぶ。この辺りから『竜馬がゆく』に描かれる。28歳で土佐を脱藩、長州・京都と流れて江戸へ、時勢は大きく変化し、慶応三年十一月33歳の時、中岡慎太郎と共に京都近江屋で暗殺される。翌月に王政復古の政変が起こって、翌々年に元号が「明治」と変わった。

◆龍馬は筆まめな男だったらしく百三十五通の手紙が見つかっている。それが行動や考え方を分析する研究材料となり、著作も非常に多い。手紙は強烈な個性の溢れた内容のものや、幕末活躍の人物あての書簡も数多い。姉への手紙には「この文は極めて大事なことばかりなので、決してペチャクチャ喋っては駄目」と念を押しているあたり、龍馬の茶目っ気が感じられて面白く、他人様の裏面をのぞく痛快さもある。『日本を今一度洗濯うんぬん』の名文句も見える。

◆土佐の海辺で坂本龍馬像が海を見ている。台座も含め、14メートル余りの大きな像である。長崎の上野彦馬写真館で撮った写真をモデルとし、目を細めて遠くを見ている。近眼の人はこうした表情になるため、これが《龍馬近眼説》の根拠となっている。実際はどうであったか詳細は不明だ。土佐は都から遠く不便な土地柄のため、思想犯や犯罪者の流刑の地だった。土佐藩では身分制度については厳しく、武士を上級・下級に分けて衣服や携帯する物品も峻別し、判然と区分けがされた。龍馬の家は下級の郷士格で、本家は豪商の才谷家だったから、龍馬の家も裕福に暮らしたようだ。後年、幕末の志士らは追手から逃れるため幾つかの変名を使ったが《才谷梅太郎》は龍馬の変名だったと言われている。

大輪田塾だより

～JF共済事業 コープこうべのとれぴち活動～

1月の大輪田塾は21日（火）に開講されました。

「JF共済事業について」共水連兵庫県事務所 企画推進課 吉岡 勝彦課長と管理課 髙田 佐王里課長より、JF共水連の歴史や共済推進活動、商品ラインナップなど、JF共済が漁業者や地域住民の浜の暮らしの保障を提供する事業であることが話されました。

続いて、「コープこうべのとれぴち活動」では、生活協同組合コープこうべ 商品部生鮮食品水産 石川 優課長より、2013年からJF兵庫漁連と連携し行っているひょうご地魚推進プロジェクトの活動内容について説明され、これからは生産者と漁業者が価値を共有し魚食文化の推進を図りたいと話されました。

塾生は、水産系統団体の利用についてや生産者からの積極的な情報発信の必要性を考えるきっかけになった様です。

コープこうべ 石川課長の講義

共水連 髙田課長・吉岡課長の講義

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336